

おしななかったことによって育成された人材が、それを支えたのだということが、誰の文章にも表れている。おさな友達・守永敏夫氏の弔辞や故・上村登氏の思い出は、服部植物研究所のいきさつや、それより以前の服部氏の行動を伝えるもので、知る人の少ない貴重な記録だろう。第二次大戦敗戦直後の九州の田舎町（と言っては失礼だが）の小さな私立研究所、それもコケなどというマイナー（これまた失礼な言い方だが）な植物を対象とする研究所が、植物研究の一分野の世界的なレベルアップにこれほどの業績を残すとは誰が予想したろう。現在の東京でさえたくさんの私立研究所があるのに、服部研に比肩すべきものはあるまい。しかし服部氏個人に会ってみれば、私には物腰の低い訥弁のおじさんとしか感じられなかった。研究と経営の希有の才に富み、それを表に出さない奥行きのある深さをもった人物像が浮かびあがる。岩槻邦男氏の一文は、そういう異能の人の活動のむづかしさをおしはかって書かれている。一読をおすすめする。連絡先〒606 京都市左京区北白川追分町、京都大学農学部応用植物学研究室、長谷川二郎（電話 075-753-6142・振替京都 4-40906）。

（金井弘夫）

□Lichens—Introduction, Lecanorales I (Flora of Australia vol. 54). A4版. xviii+349 pp. 1992. AGPS (Australian Government Publishing Service), Canberra. ペーパーバック US\$ 39.95, ハー

ドカバー US\$ 59.95.

Flora of Australia はバクテリアを除く全てのオーストラリア産の植物を網羅するように企画され、1981年に維管束植物の第1巻が出版されたあと、これまでに12巻(1, 3, 4, 8, 18, 19, 22, 25, 29, 35, 45, 46)が発行されている。今回出版された54巻は、全5巻(54-58)で企画されている地衣類の最初の巻である。地衣類の第一冊ということなので、序論から始まって、オーストラリアの地衣類研究史、地衣体の構造、構成藻、地衣成分、生態と地理分布やオーストラリア産地衣の属の検索などの総論に最初の94ページを使い、95ページから各論が始まっている。LecanoralesのうちAlectoriaceae, Cladoniaceae, Hypogymniaceae, Pannariaceae など9科、28属、230種がこの巻に収められている。科、属、種についてはそれぞれ主な文献と簡単な記相文がある。又、属および種の検索表も完備している。種、変種についてはタイプ標本、シノニムも記録され、主な標本も引用されている。さらに巻末には全ての種および変種のオーストラリアにおける分布図も掲載される入念さである。新種、新組合せ、およびlectotypeの選定は巻末にまとめてある。オーストラリア特産の*Heterodea muelleri*の精巧で綺麗な彩色画が扉を飾り、巻頭にあるFigs. 1-32のカラー写真も、随所に挿入されているFigs. 33-99のモノクロ写真も見応えがある。

（黒川 道）